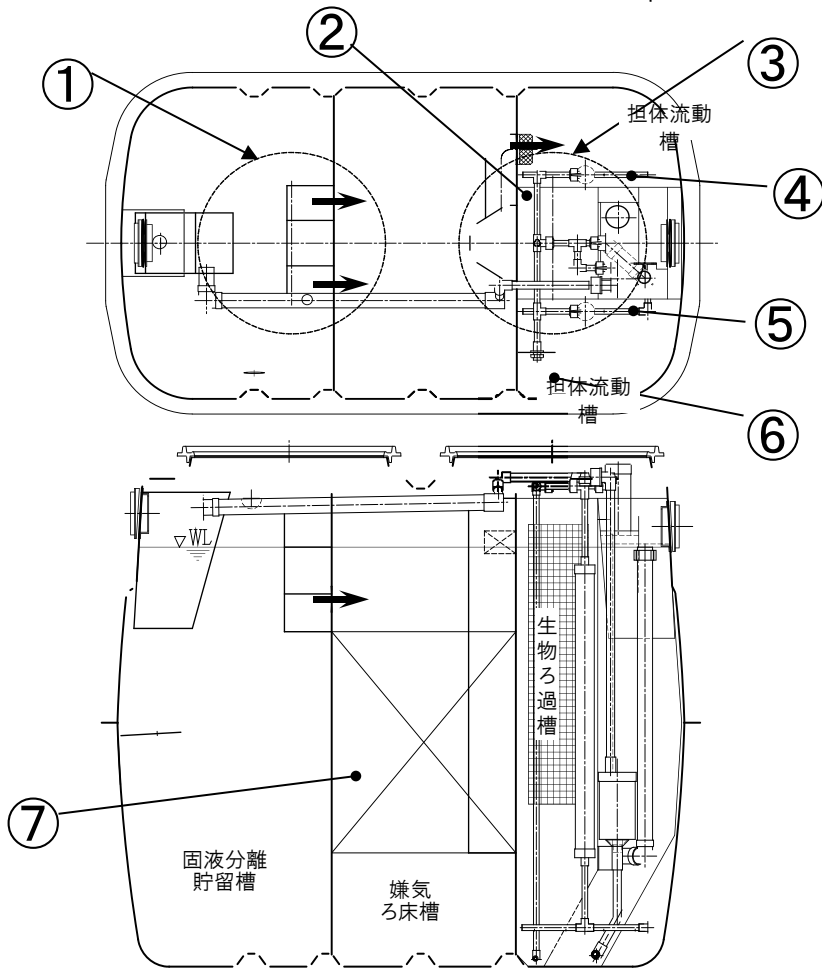
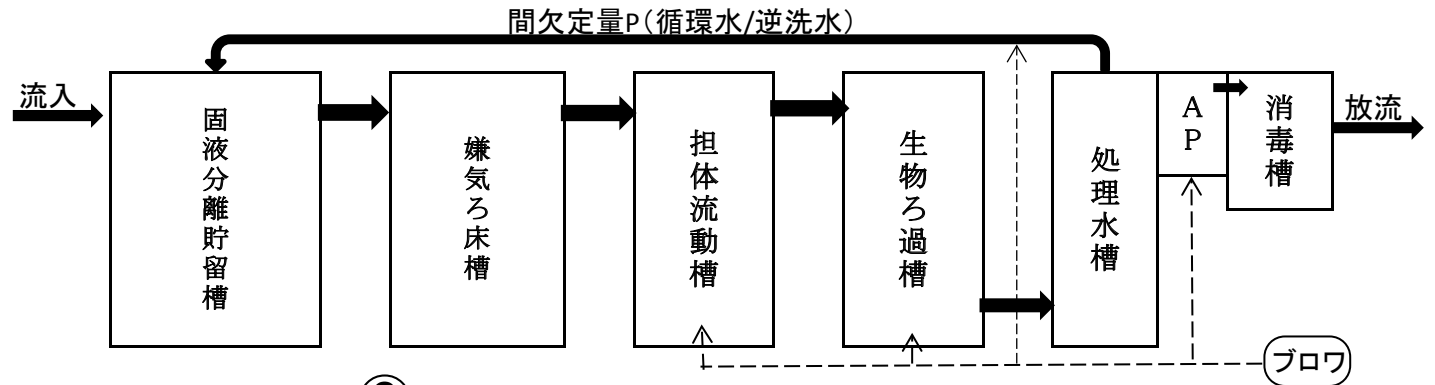


浄化王 ニッコー(株) OEM: なし 共同開発: なし 処理方式: 担体流動生物ろ過循環方式 5・7・10人槽	窒素除去型		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	20mg/L以下		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
	10mg/L以下	10mg/L以下	20mg/L以下		



- ①固液分離貯留槽
- ②生物ろ過槽担体
- ③生物ろ過槽
- ④散気装置
- ⑤散気装置
- ⑥担体流動槽担体
- ⑦嫌気ろ床槽ろ材

有効容量 (m <sup>3</sup> )		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	固液分離貯留槽	0.751	1.055	1.508
	嫌気ろ床槽	0.750	1.052	1.511
	担体流動槽	0.378	0.526	0.767
	生物ろ過槽	0.127	0.178	0.252
	処理水槽	0.084	0.118	0.167
	消毒槽		0.015	0.021
	合計		2.105	2.944

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	嫌気ろ床槽	350
---------------------	-------	-----

散気装置	散気バルブ 目盛	循環装置	循環バルブ 目盛	処理水装置 (吐出水)	処理水バルブ 目盛
有	開	有	▼	有	▼

人槽	ブロワ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	エアリフト用 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	運転停止 時間(分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5	60	70	?	?	15	1:30 3:30	5	1日
7	80	80	?			2:00 4:00		
10	100	100	?			2:45		

[人槽に対する循環水量・吐出水量の設定範囲]

循環 水量	人槽 (ℓ/分)	5	7	10	吐出水量	人槽 (ℓ/回)	5・7・10 0.90～1.05
		2.0～2.4	2.8～3.4	4.0～4.8			

・循環水量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽 の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

**固液分離貯留槽** 流入水に含まれる固形物、油脂等が分離、貯留され、中間水が嫌気ろ床槽へ流出する。

**嫌気ろ床槽** 網様円筒状ろ材が充填(55～56%)され、下降流により固形物が補足される。移流管を介して担体流動槽に流出する。流出部は担体流動槽担体の逆流を防止するためのネットが設置されている。

**担体流動槽** 槽内は左右に区分され、双方に小円筒状担体(φ13×L13mm)が充填されています。2本の散気管によって常時ばっ気され、BOD除去と硝化反応が進行する。

**生物ろ過槽** 小円筒状担体(φ13×L13mm)が充填(ろ過部は静置)されています。槽内は下降流である。その際SSが捕捉される。ろ過部では閉塞防止のためタイマー制御(初期設定は1日5回)にて逆洗を実施し、剥離汚泥は循環水とともにエアリフトポンプにて固液分離槽へ移送される。

**処理水槽** 水面付近の取水口により循環エアリフトポンプにて消毒槽に流出する。なお槽内水の一部は固液分離貯留槽へ循環される。

作 業 時 の ポ イ ン ト

**保守点検**

- ①固液分離槽においてはスカム厚、堆積汚泥の状況を確認してください。
- ②嫌気ろ床槽のスカム厚、堆積汚泥の状況、ろ材の閉塞が無いかを確認してください。
- ③担体流動槽の槽内水、流出水の性状及びばっ気、担体の流動状況などを点検してください。
- ④生物ろ過槽の担体静置状態、必要に応じ逆洗攪拌状況を確認。その際流入水があると逆洗水が流出するおそれがあるので、処理水エアリフトポンプをバルブ全閉にするなど対処してください。ばっ気の状態(気泡の均一な上昇等)及び生物ろ過への移流の状況などを確認してください。
- ⑤循環用間欠定量ポンプはバルブ開度、調整ゲート高などを点検。移送水量を実測して確認してください。
- ⑥処理水用エアリフトポンプはバルブ開度、吐出状況を点検。バルブの全開閉を複数回行い、必要に応じてブラシ洗浄してください。また配管途中の細孔(φ0.6mm)が閉塞していないか確認してください。

**清掃**

- ①固液分離貯留槽は全量引き抜いてください。嫌気ろ床槽は適正量としてください。その他単位装置は必要に応じて実施してください。